

論語教室だより

『寺子屋・こども論語塾』世話人会

第 13 号

2012 (平成24) 年4月21日 (土)

新学期が始まりました。幼稚(保育)園に入園した人、小・中学校に入学した人、そして各学年に進級した人達がいると思います。新しい友達との出会いを大切に、一日も早くそれぞれの環境に慣れることを願っています。本塾にも新しい仲間を迎えました。みんなが心をひとつにし、孔子先生が説かれた「仁(思いやり)」「礼(礼儀作法・エチケット)の精神を共に学んでいきましょう。

そこで今回は、以前にもお話ししました大事なことを、以下に書きましたので復習の意味も兼ねて確認してほしいと思います。

まず、新田先生がしばしば使う言葉の意味をしっかりと覚えてください。
素読→意味を考えないで大きな声を出して読むこと。復唱→繰り返して読むこと。章句→文の中に書いてある言葉。つまり、文章のこと。引用→話をしている途中で、他人の言葉を用いて話すこと。

次に「寺子屋」について少しふれておきます。

「学校」が日本に最初にできたのは、今からおおよそ140年前のことです。それ以前は、「寺子屋」でした。「寺子屋」は、今から約400年前の江戸時代に入ってからのことです。

最初は、江戸(今の東京)、大阪、京都などの大都市に誕生しました。やがて全国に普及し、今から180年前の1830年代には、全国各地に1万5千軒もの寺子屋があったそうです。

「寺子屋」では、僧侶(お坊さん)、書家(習字を教える人)、医者、武士、職人など、さまざまな職業の人が「先生」になって、自分の仕事や技術などを通して、子供達を教育しました。勿論、論語の素読が中心であったことはいうまでもありません。「寺子屋」は今の学校のようなところと考えてください。

最後に孔子先生と論語についてほんの少しだけふれておきたいと思います。

孔子先生は、今から約2500年前の中国(春秋時代の末期、日本では縄文時代の終わり頃)に生まれた大変立派な教育者・思想家です。理想的な政治を追い求めながら、自分の考え方や生き方を広めるために中国各地を弟子と一緒に説いて回りました。また、弟子の教育にも熱心に指導されました。弟子は三千人近くいたともいわれていますが、すぐれた弟子は七十人程で、その中の特に優秀な弟子は十人でした。なお、孔子の「子」は尊称(敬意を表す呼び名)で先生という意味です。つまり、孔先生ということになります。ただし、本塾では孔先生ではなく、孔子先生と呼びます。人には姓があり、名があります。「孔」は姓で、名は「丘」。従って、孔子先生の本名は「孔丘」と言います。身長は2m.16cm.ありました。74歳で生涯を終えました。

論語とは、孔子先生が生前に語った言葉や日常の行い、また、弟子達の質問に答えた話などをその当時の弟子達が書き留めておいたものを、孔子先生の死後、約300年かけて何代もの弟子達によって現在の形にまとめられた孔子先生の人柄や思想を知る上で最も重要な書物です。つまり、理想的な生き方についてのシンプル(むだなところがない)なルールを学べるのが「論語」の大きな魅力といえるでしょう。

論語は全体でおおよそ500の章があります。おおよそというのは、どこで区切るか、どこで結びつけるかで異なるからです。篇は学而第一篇から陽明第二十篇までであり、篇名は篇の内容を表すのではなく、単に篇の最初の二語をとったものです。論語はまた脈絡(筋道が一貫している)のある構成・展開になっていないのでどこから読んでもかまわないところがおもしろいと思います。日本の歴史上の偉人(立派な仕事をした尊敬に値する人)達も論語を学んだといわれています。例えば、聖徳太子、二宮金次郎(尊徳)、西郷隆盛。そして戦後では、ノーベル物理学賞を受賞した湯川秀樹博士は、父親から論語の素読の指導を受けたそうです。